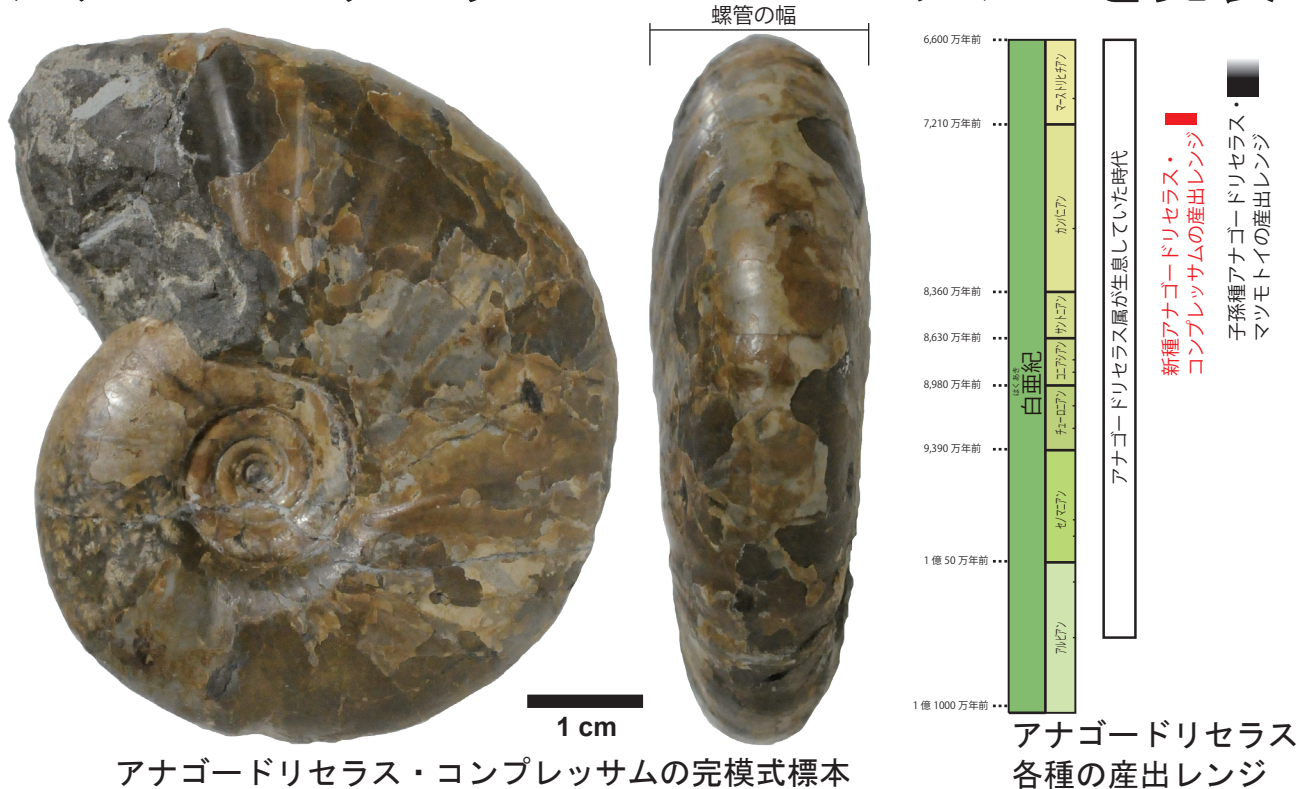


穂別産 白亜紀末の新種アンモナイト アナゴードリセラス・コンプレッサムを発表



アナゴードリセラス・コンプレッサムの完模式標本

北海道むかわ町穂別地域の白亜紀末（マーストリヒチアン期最前期、約 7,200 万年前）の地層からアナゴードリセラス属アンモナイトの新種が発見され、これを報告した重田康成先生（国立科学博物館研究主幹）と西村智弘（穂別博物館学芸員）による論文*が 7 月 1 日発行の日本古生物学会欧文誌

Paleontological Research（パレオントロジカル・リサーチ）から公表され、この中で、新種アンモナイトは *Anagaudryceras compressum* Shigeta et Nishimura sp. nov.（アナゴードリセラス・コンプレッサム）と命名されました。穂別博物館収蔵資料で、新種に指定されたアンモナイトとしては 3 例目で、アンモナイトを含む古生物としては 8 例目です。

この論文で新種記載の基とされた模式標本は、穂別博物館収蔵資料 6 個体〔博物館設立以前に旧穂別町職員によって採集された標本。田中源吾先生（九州大学特任准教授）、大和治生先生（札幌市西宮の沢小学校教諭）、西村智弘（穂別博物館学芸員）の寄贈標本〕と国立科学博物館収蔵資料 4 個体（川下由太郎氏コレクション）の計 10 個体です。

アナゴードリセラス・コンプレッサムは、螺管（らかん）幅が本属のどの種よりも薄いという特徴を持ちます。本種は小型で、成長後期の殻に、低いバンド状の肋が発達する点でマーストリヒチアン期後期の

Anagaudryceras matsumotoi アナゴードリセラス・マツモトイと共通しています。そのため両者は祖先—子孫関係にあると考えられます。おそらく新種アナゴードリセラス・コンプレッサムからアナゴードリセラス・マツモトイが北西太平洋地域で進化したものと考えられます。

この研究によって、一つのアンモナイトの起源が明らかになりました。この時代における他のアンモナイトをはじめとした海生の古生物の起源や分布域変遷がさらに明らかになることで、当時の海洋環境の変遷などの解明が期待されます。

*Shigeta, Y. and Nishimura, T., 2014. A new species of *Anagaudryceras* (Ammonoidea, Gaudryceratidae) from the lowest Maastrichtian of Hokkaido, Japan. *Paleontological Research*, vol.18, no.2. p.176-185.

学芸員 西村智弘

ミニ展示 穂別産白亜紀末の新種アンモナイト アナゴドリセラス・コンプレッサム展
 新種の標本と、今回新種が発見されたことの意義について展示します。
 7/1（火）～11/30（日）穂別博物館特別展示室



特別展示

穂別恐竜発掘展



ハドロサウルス科恐竜



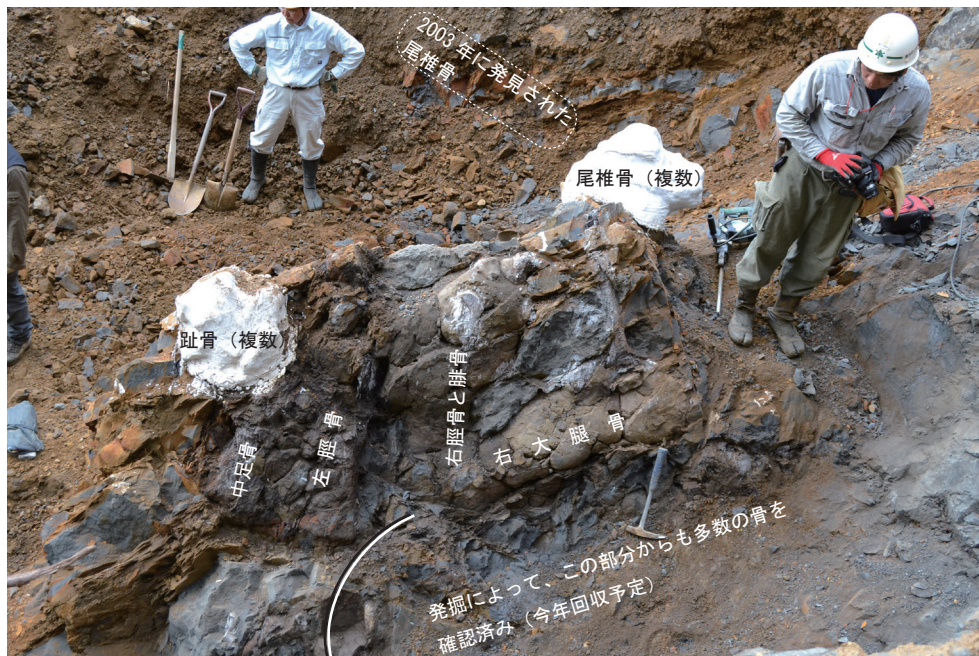
ハドロサウルス科恐竜



ハドロサウルス科恐竜



ハドロサウルス科恐竜



7/19（土）～11/30（日）

穂別博物館特別展示室

昨年の発掘で得られた恐竜の大腿骨（太ももの骨；約1.2メートル）ほかクリーニング済みの標本、昨年の発掘の様子、今年9月の第二次発掘の様子（9月以降随時追加）などを展示します。

だいたいこつ
 1.2メートルの大腿骨ほかを公開



ハドロサウルス科恐竜

ほべつ恐竜デー

2014 夏

7/20（日）、7/21（月・祝）、7/27（日）

8/3（日）、8/10（日）

恐竜が産した露頭（崖）の岩石プレゼント（無料）

（各日 博物館観覧者先着 200 名）



恐竜クリーニング見学（無料）10:00～12:00, 13:00～15:00

化石レプリカづくり（有料）10:00～12:00, 13:00～15:30

（穂別博物館立体図鑑づくり）

（15:00 受付終了）

レプリカ（石こう模型）づくり。それぞれ詳しい解説シート付き。

作業約5分+固まるまで約15分。一つ100円

[アクセス]



苫小牧から約1時間半
 札幌から千歳経由で約2時間
 道東道むかわ穂別ICより約20分

開館時間 9:30～17:00（最終入館 16:30）

入館料 個人 / 小～高校生：100円

大人 300円

団体 / 小～高校生：50円

大人 200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

休館日

7・8月は無休

町民無料観覧日

7月15日（火）～

7月21日（月・祝）

（7/20 開館記念日関連事業）